

新型コロナウイルス



清和会 嘱託医
鈴木 信夫

微生物(ウイルスや細菌)に関する実験をしながら、在宅医療を含めた総合内科医療に携わり、その後ストレス科学や宇宙医学の研究、あるいは、生物危機管理の職務などに従事した経験から、新型コロナウイルスについて正しい事のいくつかを紹介します。一般報道では指摘されていない点を記載します。

1. 未知のウイルスという点です。最悪、ヒトに果敢としてヒトの遺伝子に粉れ込んで、感染後、たとえ発症しなくても、再発の機会があるのではないかとという事です。また、遺伝子変異と言った生命メカニズムで、より強毒なウイルスへと変わらないう事。対処方法が無い以上、少なくとも、各人がウイルスの宿主となり、そのような事態を引き起こさない事を願う次第です。

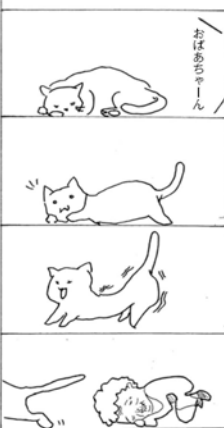
2. 次に、「感染しない、感染させない」の基本です。それは、ウイルスを根治させ得るエタノールです。そこで、例えば、買い物については、店に踏み込んだら、まず探すべき商品がマスクではない事を肝に銘じて、台所製品類を見ます。すでに見かけなくなったアルコール(エタノール)商品の代替品が隠れています。執筆のこの時期、エタノール含有商品が棚にありません。執筆のこの時期、エタノール含有商品が棚にありません。執筆のこの時期、エタノール含有商品が棚にありません。

3. したがって、「ウイルスに近づかない、近づかせない」日常生活です。まず、自身の手の動きを復習してみます。無意識に、自身の顔や口、あるいは髪に毛に触れている事に気づきません。その上での対策です。外出先での注意点をここでは割愛して、外出先からの帰宅についてです。

4. さて、様々な対策にも関わらず、残念ながら、ウイルスが体の中に侵入してしまう場合も想定しておきます。果たして、何が有効な対策があるかです。ここでは、類似ウイルスであろうインフルエンザへの対策を活用します。実は、紅茶が有用性を秘めているかも知れません。ウイルスが増殖するには、体を構成する細胞にまず吸着する必要がありますが、その吸着を阻害する成分が紅茶にはあるとの論文があります。

これは、紅茶をどのようにして飲むかです。吸着後のウイルス増殖過程では、細胞に活性酸素というストレス物質が過剰に産生されて、増殖したウイルスが体の隅々まで放出される事となります。中国からの報告では、肺炎のみならず、心臓など様々な体内臓器に侵入して臓器害を引き起こされてしまうとの事です。そこで、酸化ストレスから逃れる方策です。抗酸化作用のある飲用水で、紅茶を飲む事です。実は、そのような飲用水について、筆者は研究中なのです。

かくれんぼ 作:パッシー



御嶽神社へ初詣

ワールドナッシングホームデイサービスセンター 看護職員 鈴木 正子

当デイサービスセンターでは1月6日(月)より御嶽神社へ初詣に行きました。御嶽神社へ初詣で行くのは初めてで、神社のご協力により、境内に車を止めさせていただく事ができ、車イスの方達もスムーズにお参りが出来ました。御嶽神社には、三葉の松があります。松は、二葉か五葉が普通ですが、「三葉の松」は全国でも珍しいとの事です。その姿から「夫婦和楽・家内安全」の象徴とされ、その松葉は黄金色になって落葉します。葉も松かさも普通の松より大きく、以前、デイサービスセンターで、この大きな松かさを使い、クリスマスツリーを作りました。一週間かけ、当デイサービスセンターを利用されている皆様に、参拝していただくことができました。「家では、初詣に行くことは出来なかったので、久しぶりに初詣できて嬉しい」と、喜んでいただきました。全日天候に恵まれ、思い出に残る初詣外出会となりました。



年男として清房院節分会に参列

ワールドナッシングホーム 介護員 遠藤 剛



令和2年2月1日(土) 年号が変わり初の節分会。阿弥陀山清房院にて執り行われ、年男として参加させて頂きました。又、初めて袴を着る機会、身の縮まる思いと皆様の福を祈って参列させて頂きました。会場は、職員の方、地域の方、自衛隊の方々等、多くの方が集まり談笑される姿、手際良く度々をされる姿と、とても賑やかで、もうそこに福があるのではないかと感動しました。本堂より豆まき、お菓子まきと、撒く方、拾う方達も笑顔でとても良い経験をさせて頂いたと思っております。最後には、甘酒とおでんを美味しくいただき、皆様の除災招福を願わせてもらいました。



阿弥陀山清房院節分会に参列

ケアハウス市立船橋長寿園 生活相談員 岡村 祐子

令和2年2月1日(土) 阿弥陀山清房院の節分会に、入居者様12名、職員3名の総勢15名で参加させて頂きました。「節分会」は、新春を迎えるにあたり「除災招福」を行う行事です。そして、冬の季節から春の季節への変り目である立春前日を「節分」といいます。節分行事は、もともと中国から伝わった行事で「追儺」と呼ばれていたそうです。「儺」は厄鬼を追い払うことを意味します。(清房院副院長談)



事前に副院長より「節分」についての説明を聞き、事前準備も万端で「節分会」当日を迎える事ができました。今年は「50回目」の清房院節分会、記念すべき年との事です。昨年は生憎の雨模様でしたが、天候に恵まれ船橋市長始め、地域の皆様、市内の企業関係者の皆様、自衛隊の皆様、そして清和会関係者の皆様、沢山の方々がいらっしやっていました。ケアハウス入居者も、例年より多数の方に参加いただきました。今年のケアハウス入居者の「福娘」は、1名。袴に着替え、お堂の上から豆まきを行いました。入居者様は「こっちになて！」と大きく手をふり福男、福娘へのアピール！袋を広げ、エプロンを広げ、豆ひろいを楽しめました。豆まきの後は、美味しいおでんと甘酒で一休み。福豆はもちろん、お菓子やタオル、そして文具類。何が拾えた、何個ひろえた、と会話はずんずん進んでいきました。沢山の「福」と「おでん」で、身も心もお腹いっぱい！の入居者様でした。今年も、「節分会」に参加して沢山の「福」を頂く事ができました。今年も、よい一年でありますように…

春の合同彼岸回向会

第2ワールドナッシングホーム 生活相談員 藤谷 義彦

令和2年3月19日、第2ワールドナッシングホームにて「春の合同彼岸回向会」を執り行いました。新型コロナウイルスの影響で参列者を縮小しての開催となりましたが、外は爽やかな風が吹いている中、すでに桜も開花しており、いつもとまた違う雰囲気での合同彼岸回向会が執り行われたと思います。



この「彼岸回向会」の行事は、ワールドナッシングホームが開設以来、継続して行われている行事の一つでもあります。今回でなんと35年目の実施となり、まさに節目となるお彼岸でもありました。僧侶による読経の中、参列者である入居者様と清和会職員によって、いままでに亡くなられた入居者の方々へ「どうぞ、彼岸の地へたどり着きますように」とご冥福を祈りながら丁寧に祭壇へ献花で捧げました。普段は中々お墓参りに行く機会が少ない入居者様にとっては、「ご先祖供養もできたよ。ありがとう。」と大変喜ばれておりました。これからも入居者様へ少しでもお役に立てるように頑張っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。